



いちき串木野市

文化財 マップ



平成31年3月改訂

いちき串木野市教育委員会

無形民俗文化財

国 国指定重要無形民俗文化財
 国 国登録有形文化財
 県 県指定無形民俗文化財
 市 市指定無形民俗文化財

1 国 七夕踊 (8月上旬)



作り物(鹿)



作り物(虎)



作り物(牛)



作り物(鶴)



大名行列



琉球人踊



太鼓踊

七夕踊の由来は、島津家17代義弘の文禄・慶長の役での活躍を称えて踊られたのが始まりと伝えられています。その後一旦下火になり、1684(天和四年)、大里金鐘寺住職と地頭の床津到住が協力して大里水田の開拓などが行われ、完成祝賀会で余興として踊られました。それ以後、約300年間踊り続けられているそうです。踊りは太鼓踊りが中心ではありますが、そのまわりを牛・虎・鶴・鹿などの作り物や、大名行列、琉球王行列、薙刀行列などの行列ものも回ります。

2 国 市来大迫家住宅



市来大迫家住宅は、いちき串木野市湊町に所在し、大正5年(1916)に建築され、昭和16年(1941)には、竹田宮恒徳王殿下もご宿泊された歴史ある建物です。
 登録年月日 平成30年3月27日



3 県 太郎太郎祭 (2月下旬~3月上旬)



太郎太郎祭は県指定無形民俗文化財で、羽島神社の氏子が主となって運営されています。祭りの中では、田打ちと船持ちの祝いの2つが行われます。舟持は、舟歌を歌う人々が神殿に祭られている模型のダンベ(回平)船・帆舟を出して上下に揺らしながら介添え人とともに境内を回ります。このとき船歌「よいこの節」が歌われます。この歌は旧正月3日から2月4日までの祭りの日は歌ってよいが、それ以外には歌ってはいけない決まりがあります。田打ちの祝いにはテチョと太郎とまず出てきて、脇に控えていた養蚕姿の5歳児を先導し、田おこしの様子を再現します。その後は牛が登場し、テチョと太郎と牛の掛け合いなどユーモラスな演技が見ものです。



4 県 ガウンガウン祭 (2月下旬~3月上旬)



ガウンガウン祭は、春のお田植え祭りです。神事がすむとテチョ(父親)が現れ、大きな木の股で田を耕す所作をして、豊作を祈ります。

5 市 羽島南方神社太鼓踊 (8月中旬)



この太鼓踊りは、薩摩川内市東郷町の山田染を取り入れたもので、踊りの構成は、太鼓16人、鉦4人の合計20人の若者で、集荷所、山の神(ヤマンカン)、南方神社、悟入寺、浜のお寺の公園、羽島小学校校庭の6ヶ所を中心に踊られます。

6 市 野元の虎とり (不定期)



この野元の虎捕りは近松門左衛門作の浄瑠璃「国性爺合戦」の二段目「千里ヶ竹」の後半部分の虎狩りの場面を演じたものです。この踊りは勇壮で、しかも太鼓・三味線・拍子木による鳴物がすばらしく、リズムカルでユーモアに富んでいます。

7 市 虫追踊 (9月23日)



大里たんぼに「上実盛ドン」「下実盛ドン」と呼ばれる塚があります。この虫追踊は実盛ドン塚を主として踊られました。昔、源平時代、斎藤別当実盛が敵と戦っている時、馬が稲の切り株につまずいて倒れ、実盛は不覚にも討たれて死んだそうです。その怒霊が虫になって稲を害するといふ伝説があります。この御霊信仰に基づいて日本の中部以西では「実盛送り」という行事を行っているところが多いそうです。大里では、この虫追踊がいつから始まったかは明らかではありません。

8 市 祇園祭 (7月下旬)



1812年(文化9年)八坂神社の建立とともに始まりました。囃山は京都の祇園祭に似せて行われ、京都まで行って習ってきたと言われていました。祇園山(山車[やま])は男山3台(市口町・新町・内門)女山3台(浜之町・仲之町・松下町)、それに唐人町には漢林王囃があって、山車もありましたが、売却されて現在はありません。平成19年からは、大人御輿・子ども御輿も参加し、祭りを盛り上げています。

9 市 川上踊 (8月下旬)



旧市来町郷土誌によると川上踊は、百数十年前、五穀豊穡と平和を祈念して創始されたものと伝えられています。地元では島津家17代義弘の文禄・慶長の役での活躍を記念して踊られたとも伝わっています。踊りの組織構成は、踊り総代4人、審議員25人、神社総代2人、踊り師匠3人と踊り子は太鼓14人、鉦4人から成り、川上地区に残る神社などで踊りを奉納します。

有形民俗文化財

市 市指定有形民俗文化財



1842(天保13)年に建立されたもので、女性は右手に鋤を持った巫女で、祈りをしているようにも見えます。男性は、シキをかぶり、田の神舞の姿で、メシゲと飯碗を持っています。



1747(延享4)年に建立されたもので、腰の長い冠をかぶり、両手で杓を持っている姿をしています。この神官立像の田の神像は串木野と市来を中心とした地域しかないと言われ、10体ほどが確認されています。

史跡名勝天然記念物

- 県天** 県指定史跡名勝天然記念物(天然記念物)
- 市天** 市指定史跡名勝天然記念物(天然記念物)
- 県史** 県指定史跡名勝天然記念物(史跡)
- 市史** 市指定史跡名勝天然記念物(史跡)



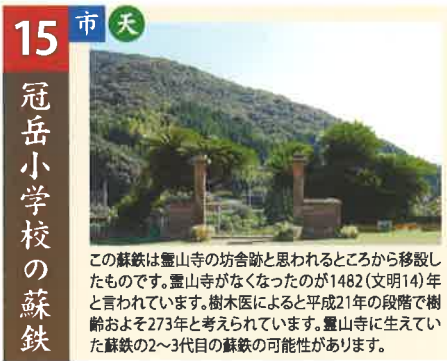
仙人岩は海拔約200mの岩山で、キクシノブ、ヤッコウンウなど貴重な植物が群生しています。キクシノブは熱帯性のシダで、台湾、琉球、屋久島及び本州の紀伊、伊勢地方に自生していますが、九州本土ではここが唯一です。



藩政時代、富宿家にあった「ウッガンサア(内神様)」が祀られています。戦後の都市計画によって、この一画を「ウッガンドンの森」とし、内神の祠と棕・榎・たぶの木の3本の大木が残されました。



十里塚は、鹿児島市内の「下町の札辻」と呼ばれる所から、十里の所に築かれた塚です。この付近には昔、江戸へ向かう「出水筋」が通っていました。



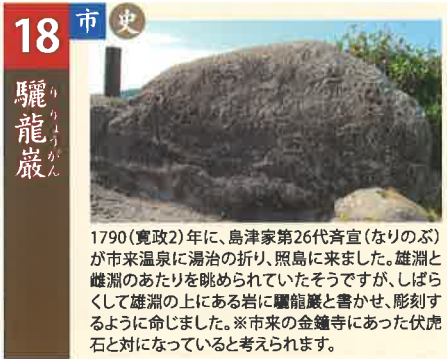
この蘇鉄は霊山寺の坊舎跡と思われるところから移設したものです。霊山寺がなくなったのが1482(文明14)年と言われています。樹木医によると平成21年の段階で樹齢およそ273年と考えられています。霊山寺に生えていた蘇鉄の2~3代目の蘇鉄の可能性がります。



来迎寺墓塔群には、市来を古くから統治していた市来氏歴代の墓が建てられています。市来氏は同じ惟宗姓を持ち、後から地頭として赴任してきた島津氏時には協力し、時には戦ってきましたが、ついに1462(寛正3)年、市来久家・忠家親子の時、島津氏により滅ぼされました。



市来貝塚は大正10年に山崎五十磨、昭和36年には河口貞徳により発掘調査が行われました。36年の発掘調査では人骨が3体出土し、多数の土器、石器、骨角器が出土しました。また、平成2年度・4年度には学術調査を実施した結果、全国でも数例、九州では初めてというオオヤマネコの骨や、西北九州に広く分布する組合せ石鈿が出土しました。平成6年3月16日に県指定文化財に指定されました。



1790(寛政2)年に、島津家第26代斉宣(なりのぶ)が市来温泉に湯治の折り、照島に來ました。雄淵と雌淵のあたりを眺められていたようですが、しばらくして雄淵の上にある岩に驪龍巖と書かせ、彫刻するように命じました。※市来の金鐘寺にあった伏虎石と対になっていると考えられます。



文禄・慶長の役後、1593(慶長3)年12月、島津家17代義弘は陶工70名ほどを薩摩へ連れてきました。陶工のうち一部は島平に上陸し、窯を焼きました。それが薩摩焼発祥の地です。



1865年(慶応元年)3月、羽島から五代友厚ら薩摩藩士の若者19名が、留学生としてヨーロッパに渡りました。一行は同年5月イギリスに着き、それぞれ欧州で産業や語学等を選び、日本に帰ってきました。帰国後それぞれの分野で日本の先駆的役割を果たしました。



大中公とは、島津家15代貫久の法名「南林寺殿 大中良等庵主」の大中からきています。この供養等は、貫久の御璽を家久が記るために建てたものです。



この2つの橋は、1852(嘉永5)年、斧ヶ野金山旧出水筋に5つ架けられた石造アーチ橋です。これらの橋は、肥後(熊本県)の石工若永三五郎の技術を習得した薩摩の石工が架設した橋であると言われています。



24 市史

串木野氏の墓



串木野氏は、薩摩郡地頭平忠直の子、串木野三郎忠道に始まって、2代忠行、3代忠秀、4代平次郎、5代忠秋と5代120年余り続きましたが、1342(興国3)年串木野城の戦いで島津家5代貞久に敗れ知覧へ逃れました。

25 市史

来迎寺墓塔群(丹後局の墓ほか)



写真の墓は、島津初代惟宗忠久を産んだとされる丹後局の墓とされています。この墓以外の多数の五輪塔も市の指定になっています。

26 市史

金鐘寺墓塔群



1337(永和3)年、市来氏は大坂出身の了堂和尚を招いて開山しました。曹洞宗当時は七堂伽藍が建ち並び、末寺が全国に49にも及ぶ隆盛を誇っていましたが、明治2年の廃仏毀釈により廃寺となりました。現在は、住職の墓である無縫塔などがあります。

27 市史

船着場跡



伝説では現在のJR市来駅辺りに、丹後局が舟で着いたと言われています。丹後局とは島津初代惟宗忠久の産みの母と言われています。

28 市史

鍋ヶ城跡と惟宗廣言の墓



市来氏の祖大蔵政房が1200年前に市来郡司となり居城したと言われています。台地中央部には層塔があり、この塔は島津初代忠久の母とされる丹後局と結婚し、市来院の地頭となった惟宗廣言の墓と伝えられています。

29 市史

町門の跡



町門は、湊町へ入りするための門で木や竹を組み合わせて作られていました。御飯屋に近かったので、町内の出入りを厳しく取り締まっていたそうです。

30 市史

川口番所跡



薩摩藩では重要な港には御船奉行を置き、密貿易を取り締まっていました。当時の市来湊は、九州各地から船が入り出す栄えた港だったので、番所を置いて密貿易などの取り締まりをしていました。

31 市史

御飯屋跡



市来郷行政の役所跡です。少なくとも1613(慶長18)年、入来関係文書に「市来湊御飯屋」の記載があるのでこの頃には置かれていたようです。郷には地頭が派遣され、その政務を任されていたが、寛永年間(1624年~1643年)に居地頭が廃止となり、掛持地頭ができました。

32 市史

孝子徳右衛門の墓



徳右衛門は唐人町の人で、油を売りながら母親と一緒に暮らしていました。母親は酒好きで、大変気が短く食べ物がまずいとすぐ怒っていたそうです。徳右衛門が結婚するたび、嫁が気に入らないとして別れさせ、とうとう徳右衛門は結婚しなかったそうです。母親は最終的には糞尿を漏らすようになりましたが、徳右衛門は少しも嫌がらず看病しました。このことが第23代藩主島津宗信の耳に入り、米15匁をいただいたそうです。

33 市史

御飯屋通用門



郷の政務を司るところが御飯屋ですがこれは家来などが使用した通用門です。野田家は、江戸時代に唐通事(通訳)として仕えており、後に野田家に払い下げられたものです。

34 市史

川上城跡



市来氏の分家の河上氏は、市来院河上名主職をもらい約350年間河上を治めていました。その川上氏の居城と言われるのが、川上城跡です。河上氏は、16世紀末(天正から文禄年間頃)に伊集院忠棟の婿であった本田氏とのもめごとにより川上の地を追われました。

35 市史

岩屋観音



観音ヶ池の近くに、自然石で出来た岩屋があります。巨岩の根本には年中絶えることのない清水をたたえています。昔から、様々な御利益があると言われ、信仰の対象として崇められています。

36 市史

川野家武家門



川野家は平家の子孫と言われ、市来地域では唯一残る武家門です。

37 市史

中原の治水溝



この治水溝は、1852(嘉永五)年に完成しました。中原のシラス台地がたびたび崩れ、住民の生活はもちろん参勤交代で使用された出水筋にも被害をもたらすものとして、藩の直営工事として施工されました。

38 市史

川上中組墓塔群



市来氏の分家である河上一族の墓であると言われ、時代的には鎌倉弘安期(1278~87)の墓と思われる五輪塔群があります。



麓にある旧入来邸は郷土年寄格で本市に所在する武家屋敷を代表するものです。建築年代は少なくとも幕末期と考えられます。庭木であるイヌマキとゴヨウマツも江戸時代に植えられたものと考えられます。指定年月日 平成29年1月24日

文化財マップ

鹿児島県



いちき串木野市

- JR鹿児島中央駅からJR串木野駅まで約35分
- 鹿児島空港からリムジンバスで約1時間30分
- 鹿児島市内から西回り自動車道を車で約30分



土と共に生き、水で命を育み、
風を味方にし、
空に祈りを捧げた先人達。
古来より脈々と受け継がれる
文化がここにあります。

いちき串木野市の文化財

1 国 市来の七夕踊	21 市 大中公の廟
2 国 市来大迫家住宅	22 市 北口屋橋
3 県 太郎太郎祭	23 市 椿平橋
4 県 ガウングウン祭	24 市 串木野氏の墓
5 市 羽島南方神社太鼓踊	25 市 来迎寺墓塔群 (丹後局の墓ほか)
6 市 野元の虎とり	26 市 金鐘寺墓塔群
7 市 虫追踊	27 市 船着場跡
8 市 祇園祭	28 市 鍋ヶ城跡と惟宗廣言の墓
9 市 川上踊	29 市 町門の跡
10 市 一石並立型田の神	30 市 川口番所跡
11 市 神像型田の神	31 市 御飯屋跡
12 県 仙人岩の植物群落	32 市 孝子徳右衛門の墓
13 市 うっがんだんの森	33 市 お飯屋通用門
14 市 十里塚の榎	34 市 川上城跡
15 市 蘇鉄	35 市 岩屋観音
16 県 来迎寺墓塔群	36 市 川野家武家門
17 県 市来貝塚	37 市 中原の治水溝
18 市 驪龍巖 (りりょうがん)	38 市 川上中組墓塔群
19 市 さつま焼発祥の地	39 市 旧入来邸武家屋敷と古木
20 市 留学生渡欧の地	



お問い合わせ

いちき串木野市 教育委員会
社会教育課

〒899-2192 鹿児島県いちき串木野市湊町一丁目1番地

TEL 0996-21-5113

FAX 0996-36-5044

e-mail:bunka1@city.ichikikushikino.lg.jp